

| 課題番号 | 研究課題名 | 研究代表者 | 評価結果 |
|---|---------------------------|----------------------------|------|
| 17100003 | 非侵襲的脳機能画像法を用いた社会能力発達過程の解明 | 定藤 規弘 (自然科学研究機構・生理学研究所・教授) | A |
| <p>個々の研究成果としては、それぞれ価値があり、有用で評価できる一方、当初の研究目的に照らし合わせると以下の問題点を考慮すべきと考える。</p> <p>(1) 全体組織構成における役割分担が、個々の研究成果をあげるだけでなく、有機的に結びつけられるべきであるが、現状では希薄と見受けられる。テーマが深淵であるため、様々なアプローチが考えられるが、若干広がり過ぎの印象を受ける。この観点から、テーマの絞り込みによる組織体制の見直しがあってもよいだろう。</p> <p>(2) モデルの内容や表現の新規性、特に、社会発達の観点からの考察が薄いと感じられる。世界初の同期性の検証は優れたものであると評価できるが、そのことにより、単なる検証だけでなく、テーマに沿った新たなモデルや表現を提案すべきだろう。</p> | | | |